

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2026.6.1-7

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（1～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

11:1 私がキリストに倣う者であるように、あなたがたも私に倣う者でありなさい。
 11:2 さて、私はあなたがたをほめたいと思います。あなたがたは、すべての点で私を覚え、私があなたがたに伝えたとおりに、伝えられた教えを堅く守っているからです。
 11:3 しかし、あなたがたに次のことを知ってほしいのです。すべての男のかしらはキリストであり、女のかしらは男であり、キリストのかしらは神です。
 11:4 男はだれでも祈りや預言をするとき、頭をおおっていたら、自分の頭を辱めることとなります。
 11:5 しかし、女はだれでも祈りや預言をするとき、頭にかぶり物を着けていなかったら、自分の頭を辱めることとなります。それは頭を剃っているのと全く同じことなのです。
 11:6 女は、かぶり物を着けないのなら、髪も切ってしまうなさい。髪を切り、頭を剃ることが女として恥ずかしいことなら、かぶり物を着けなさい。
 11:7 男は神のかたちであり、神の栄光の現れなので、頭にかぶり物を着けるべきではありません。一方、女は男の栄光の現れです。
 11:8 男が女から出たのではなく、女が男から出たからです。
 11:9 また、男が女のために造られたのではなく、女が男のために造られたからです。
 11:10 それゆえ、女は御使いたちのため、頭に權威のしるしをかぶるべきです。
 11:11 とはいえ、主にあっては、女は男なしにあるものではなく、男も女なしにあるものではありません。

11:12 女が男から出たのと同様に、男も女によって生まれるのだからです。しかし、すべては神から出ています。
 11:13 あなたがたは自分自身で判断しなさい。女が何もかぶらないで神に祈るのは、ふさわしいことでしょうか。
 11:14 自然そのものが、あなたがたにこう教えていないでしょうか。男が長い髪をしていたら、それは彼にとって恥ずかしいことであり、
 11:15 女が長い髪をしていたら、それは彼女にとっては栄誉なのです。なぜなら、髪はかぶり物として女に与えられているからです。
 11:16 たとえ、だれかがこのことに異議を唱えたくても、そのような習慣は私たちにはなく、神の諸教会にもありません。

偶像の話題の次に教会の混乱についてパウロは問題にします。ひとつは男女の外見についてです。ここでは、男性のかぶり物、女性のかぶり物、男性の長い髪、女性の長い髪について語られています。もしもそれを普遍的な命令として解釈するなら、「絶えず祈りなさい」と言われている私たちにとって、男性は常時祈っているの帽子やヘルメットを被ることは罪であり、女性は常にベールを被っていないと罪になります。またイエス様が長い髪をしていたら、それは「男として恥ずかしい」ということになったでしょう。これは、「私たちにはそのような習慣はない」とパウロが言うように、その時代の習慣に則(のっと)って、語られていることです。パウロが意味していることは、その時代の習慣や常識から考えて恥になるような外見は避けようということです。クリスチャンは律法的な生き方はしませんが、自分勝手にいいというわけではなく、「神の栄光を表す」という喜びの動機がある

からです。

またパウロは、「男のかしらはキリストであり、女のかしらは男であり、キリストのかしらは神」とも言っています。男性は女性よりも優位にあるように見えても、結局かしらはキリストであり神なのです。「男性には負けない」「女性には負けたくない」などと対抗心を持つのは意味がありません。要は神に従うことです。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(気持や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



2日 火曜

コリント I

11:17 ところで、次のことを命じるにあたって、私はあなたがたをほめるわけにはいきません。あなたがたの集まりが益にならず、かえって害になっているからです。

11:18 まず第一に、あなたがたが教会に集まる際、あなたがたの間に分裂があると聞いています。ある程度は、そういうこともあるかと思いますが。

11:19 実際、あなたがたの間で本当の信者が明らかにされるためには、分派が生じるのもやむを得ません。

11:20 しかし、そういうわけで、あなたがたと一緒に集まっても、主の晩餐を食べることにはなりません。

11:21 というのも、食事のとき、それぞれが我先にと自分の食事をするので、空腹な者もいれば、酔っている者もいるという始末だからです。

11:22 あなたがたには、食べたり飲んだりする家がないのですか。それとも、神の教会を軽んじて、貧しい人たちに恥ずかしい思いをさせたいのですか。私はあなたがたにどう言うべきでしょうか。ほめるべきでしょうか。このことでは、ほめるわけにはいきません。

11:23 私は主から受けたことを、あなたがたに伝えました。すなわち、主イエスは渡される夜、パンを取り、

11:24 感謝の祈りをささげた後それを裂き、こう言われました。「これはあなたがたのための、わたしのからだです。わたしを覚えて、これを行いなさい。」

11:25 食事の後、同じように杯を取って言われました。「この杯は、わたしの血による新



しい契約です。飲むたびに、わたしを覚えて、これを行いなさい。」

11:26 ですから、あなたがたは、このパンを食べ、杯を飲むたびに、主が来られるまで主の死を告げ知らせるのです。

教会の混乱の第二番目は分裂と、それをもたらしそうな主の晩餐についてです。

分裂も「やむをえない」場合があるとパウロは言います。「本当の信者が明らかにされるため」です。間違った神観、聖書観、教会観などを持ち続ける人は、教会の交わりからは去って行くのも「やむをえない」ということです。ただしパウロは冷たい心でこれを書いているのではなく、「涙をもって」と他の箇所書いているように、大きな痛みを伴ってのことです。

パウロが最も問題にするのは上述のことではなく、主の晩餐の持ち方が害になっていてそれで「分裂があると聞いて」いるからです。主の晩餐とはイエス様の最後を思いながら、その救いにあずかった者たちが心を1つにして、感謝し信仰を新たにするものです。しかし、そうではなく「害になっている」というのです。

その原因は豊かな者は自分の食べ物を楽しんで、貧しい者に分け与えもせずにいるということです。それで貧しい人々は恥ずかしい思いをしていたのです。主の晩餐（または聖餐）はイエス様を覚えるためのものですから、そこには愛がなければなりません。ならば主にある交わりも同じで、互いのための思いやりが大切です。

教会には様々な面で乏しい人、悲しんでいる人、弱っている人などが集っています。思いやることに「これで十分」ということはないでしょう。主を覚えるためにも、分かち合い支え合いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



3日 水曜

コリント I



11:27 したがって、もし、ふさわしくない仕方でパンを食べ、主の杯を飲む者があれば、主のからだに血に対して罪を犯すこととなります。

11:28 だれでも、自分自身を吟味して、そのうえでパンを食べ、杯を飲みなさい。

11:29 みからだをわきまえないで食べ、また飲む者は、自分自身に対するさばきを食べ、また飲むことになるのです。

11:30 あなたがたの中に弱い者や病人が多く、死んだ者たちもかなりいるのは、そのためです。

11:31 しかし、もし私たちが自分をわきまえるなら、さばかれることはありません。

11:32 私たちがさばかれるとすれば、それは、この世とともにさばきを下されることがないように、主によって懲らしめられる、ということなのです。

11:33 ですから、兄弟たち。食事に集まるときは、互いに待ち合わせなさい。

11:34 空腹な人は家で食べなさい。あなたがたが集まることによって、さばきを受けないようにするためです。このほかのことについては、私が行ったときに決めることにします。

教会での食事から話題は聖餐に移ったような印象を受けますが、元来初代教会では主の十字架を覚える「聖餐」は、食事と一緒に行われたようです。それほど教会では交わりにおいて食事が大切にされてきたのです。ユダヤの伝統でも、食事を共にするのは家族であり、また同じものを食べることによって同じ身体が作られると思われていたのです。

それでパウロは「自分を吟味して、そのうえでパンを食べ、杯を飲みなさい」と言っています。これ

はあきらかに聖餐のことです。「わきまえないで、食べまた飲む」とは一義的には、自分勝手に食事をするのですが、「みからだ」とありますから、十字架にかかられたイエス様のみからだであり、その救いの確かさと愛の限りなさ、そしてみこころの厳かさということでしょう。

そのような主のみからだの意味、すなわち十字架の意味をわきまえないで勝手に「飲み食いするならば」、主のさばきを自ら招く結果になるというのがパウロの教えるところであり、戒めとしてコリントの教会の実例が挙げられています。ただしここにあるような「さばき」も、クリスチャンに対しては、永遠の滅びではありません。「世とともに罪に定められることのないため」とありますから、悔い改めて「わきまえる」者となるためです。

それにしても私たちは、主からさばかれる前に「自分をさばく」ようでありたいと思います。すなわち、主の聖餐において十字架のイエス様のみからだをわきまえているか、聖餐に関連して食事などの交わりにおいて自分勝手ではないかどうかをよく吟味して、みこころを知って従うということです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



4日 木曜

コリント I

12:1 さて、兄弟たち。御霊の賜物については、私はあなたがたに知らずにいてほしくありません。

12:2 ご存じのとおり、あなたがたが異教徒であったときには、誘われるまま、ものを言えない偶像のところに引かれて行きました。

12:3 ですから、あなたがたに次のことを教えておきます。神の御霊によって語る者はだれも「イエスは、のろわれよ」と言うことはなく、また、聖霊によるのでなければ、だれも「イエスは主です」と言うことはできません。

12:4 さて、賜物はいろいろありますが、与える方は同じ御霊です。

12:5 奉仕はいろいろありますが、仕える相手は同じ主です。

12:6 働きはいろいろありますが、同じ神がすべての人の中で、すべての働きをなさいます。

12:7 皆の益となるために、一人ひとりに御霊の現れが与えられているのです。

12:8 ある人には御霊を通して知恵のことばが、ある人には同じ御霊によって知識のことばが与えられています。

12:9 ある人には同じ御霊によって信仰、ある人には同一の御霊によって癒やしの賜物、

12:10 ある人には奇跡を行う力、ある人には預言、ある人には霊を見分ける力、ある人には種々の異言、ある人には異言を解き明かす力が与えられています。

12:11 同じ一つの御霊がこれらすべてのことをなさるのであり、御霊は、みこころのままに、一人ひとりそれぞれに賜物を分け与えてくださるのです。

はすばらしいものですが、残念なことにその賜物の違いによって分裂・分派が起きることがあります。そうならないようにパウロは賜物は違ってもみな同じ聖霊から与えられるのだから一つなのだとして強調します。

まずクリスチャンはみな聖霊の促しによって救われた聖霊の宮であることが大前提として述べられています。聖霊によるのでなければ、だれも、「イエスは主です。」と言うことはできないからです。ですから同じ御霊によって賜物が与えられているので、分裂・分派が起こってはならないです。

ここでは賜物のほかに、奉仕と働きも同じように主からのものと書かれています。原語では賜物は「カリスマ」で、恵として与えられる能力です。奉仕は原語では「ディアコニア」で、その人に任せられた係りや職務などを表します。働きは原語では「エネルゲイア」で、力を発揮して主の栄光を表すようなものを表します。これらは3つに分類するというのではなく、どんな人のどんなわざもこれら3つの側面があると考えるべきでしょう。分離できるものではありません。

大切なことはどれも主から与えられているということです。ですから自分の賜物、奉仕、働きがすばしいからと言って誇ることもいけませんし、こちらの方が優れていると言ってもそれは間違いなのです。

それはクリスチャン同士でも、グループ同士でも、教会・教団・教派間でも言えることです。自分とは違う賜物を持つ人（たち）を、主が与えられたことのゆえに感謝しましょう。また自分の賜物を主のゆえに感謝し、その賜物を大いに生かしてゆきましょう。



①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5日 金曜

コリント I



12:12 ちょうど、からだの一つでも、多くの部分があり、からだの部分が多くても、一つのみからであるように、キリストもそれと同様です。

12:13 私たちはみな、ユダヤ人もギリシア人も、奴隷も自由人も、一つの御霊によってバプテスマを受けて、一つのみからとなりました。そして、みな一つの御霊を飲んだのです。

12:14 実際、からだはただ一つの部分からではなく、多くの部分から成っています。

12:15 たとえ足が「私は手ではないから、からだに属さない」と言ったとしても、からだに属さなくなるわけではありません。

12:16 たとえ耳が「私は目ではないから、からだに属さない」と言ったとしても、からだに属さなくなるわけではありません。

12:17 もし、からだ全体が目であったら、どこで聞くのでしょうか。もし、からだ全体が耳であったら、どこでおいを嗅ぐのでしょうか。

12:18 しかし実際、神はみこころにしたがって、からだの中にそれぞれの部分を備えてくださいました。

12:19 もし全体がただ一つの部分だとしたら、からだはどこにあるのでしょうか。

12:20 しかし実際、部分は多くあり、からだは一つなのです。

パウロがまだ教われる前にキリストを迫害していたとき、イエス様が天から「どうしてわたしを迫害するのか」と、パウロに語りかけました。それでパウロは「教会とはイエス様そのものなのだ」と知ったと思われます。教会とはキリストの共同体であり、イエス様が命をかけて滅びから救い、そして代価を払って買い取った（贖った）イエス様の

ものです。教会が苦しむことは主イエスご自身が苦しむことで、教会の栄光はイエスご自身の栄光です。

まさに教会はイエス様のからだなのです。体であるということから教会のあるべき姿が明確になります。第一には、教会は「一つ」です。別の方向に進むことはできません。また一部が痛めば全体も痛みます。全体の健康がなければ部分の健康もないのです。それが教会です。

第二には、キリストは「器官」です。それぞれが機能・働きを持っているのです。それを果たさなくてはなりません。器官ですから皆がなくってはならない存在です。また器官であってそれぞれに機能がありますから、互いに違いがあります。

以上から多くの規範を学ぶことができます。キリストはキリストを中心にして一致すべきです。キリストは他の兄弟姉妹の痛みも喜びも共感すべきです。キリストは教会全体の健全さを求める必要があります。キリストは教会において自分の機能や働きを知って、その使命を果たし貢献する必要があります。キリストは自分が器官なので、教会にとってかけがえのない大切な存在であることを自覚する必要があります。そして他のキリストも大切な存在であり、自分にはない機能を持っていることを知って、感謝する必要があります。キリストは他の人が自分と違う考え・感じ方・結論・行動パターンを持っていることを肯定的に受け止める練習が必要です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



6日 土曜

コリント I

12:21 目が手に向かって「あなたは知らない」と言うことはできないし、頭が足に向かって「あなたがたは知らない」と言うこともできません。

12:22 それどころか、からだの中でほかより弱く見える部分が、かえってなくてはならないのです。

12:23 また私たちは、からだの中で見栄えがほかより劣っていると思う部分を、見栄えをよくするものでおおいます。こうして、見苦しい部分はもっと良い格好になります。

12:24 格好の良い部分はその必要がありません。神は、劣ったところには、見栄えをよくするものを与えて、からだを組み合わせられました。

12:25 それは、からだの中に分裂がなく、各部分が互いのために、同じように配慮し合うためです。

12:26 一つの部分が苦しめば、すべての部分がともに苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分がともに喜ぶのです。

12:27 あなたがたはキリストのからだであって、一人ひとりはその部分です。

12:28 神は教会の中に、第一に使徒たち、第二に預言者たち、第三に教師たち、そして力あるわざ、そして癒やしの賜物、援助、管理、種々の異言を備えてくださいました。

12:29 皆が使徒でしょうか。皆が預言者でしょうか。皆が教師でしょうか。すべてが力あるわざでしょうか。

12:30 皆が癒やしの賜物を持っているでしょうか。皆が異言を語るでしょうか。皆がその解き明かしをするでしょうか。



12:31 あなたがたは、よりすぐれた賜物を熱心に求めなさい。私は今、はるかにまさる道を示しましょう。

脳、心臓、脊髄などは少しの損傷で大きなダメージとなる弱い部分ですが、それは体にとって非常に大切だからです。キリストの体である教会も同じで、弱いと見える人やグループが重要な場合があるということです。

また「尊びます」とは覆いをかけるという意味がありますから、衣服などで覆うという意味にも解釈できます。それは「調和」のため、「いたわり合うためです」とあります。

教会は「苦しみ」など思いを共有するところですから。それはせめて一週間ごとの交わりがなければ有り得ないことでしょう。また「すべての部分」とありますから、自分の気に入った人のことだけを気にかけていれば「いたわっている」ということではなく、教会全体を思って祈り、支えることが大事です。

次にパウロは、私たちが各器官であるということから、教会の働きへの任命について説明しています。使徒、預言者、教師は人に教える働きです。奇跡やいやしの賜物を持つ人は祈る働きです。助ける者、治める者は教会の運営面で奉仕をする人でしょう。異言を語る者が最後にありますが、これについては注意を要するので、パウロは後にその説明をしています。

ここで大切なのは、「みなが…でしょうか。」という点です。それぞれの賜物が違っていいのです。「あの人にはこの賜物があるからすぐれている」「この人には与えられていないから劣っている」と考えるのは間違いなのです。個人も教会も主の主権によって与えられた賜物を感謝して、主のために精一杯用いるべきなのです。もしも「自分だけが賜物を与えられた」と思うなら、誰よりもへりくだって、その賜物を他の人のために用いなければなりません。

そしてパウロは愛という賜物に関しては、これらよりも「すぐれ」と明言しています。誰もが持つべき賜物だからです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



す。

- 13:1 たとえ私が人の異言や御使いの異言で話しても、愛がなければ、騒がしいどころか、うるさいシンバルと同じです。
- 13:2 たとえ私が預言の賜物を持ち、あらゆる奥義とあらゆる知識に通じていても、たとえ山を動かすほどの完全な信仰を持っていても、愛がないなら、私は無に等しいのです。
- 13:3 たとえ私が持っている物のすべてを分け与えても、たとえ私のからだを引き渡して誇ることになっても、愛がなければ、何の役にも立ちません。
- 13:4 愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。
- 13:5 礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、苛立たず、人がした悪を心に留めず、
- 13:6 不正を喜ばずに、真理を喜びます。
- 13:7 すべてを耐え、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを忍びます。

全ての賜物よりも「まさる」のが愛です。愛がなければあらゆるものが無価値になるとパウロは言っています。この厳然たる真理は、もちろん聖霊によって神様が語らしめたもので、神のみこころです。

寛容、親切、自慢せず、高慢にならず、礼儀に反せず、利己的でなく、怒らず、人の悪を思わず、不正ではなく真理を喜び、すべてをがまんし、信じ、期待し、耐え忍ぶ…愛とはそういうものだありますから、この際に自分をよく省みる必要があります。

これらの愛の表れがあるでしょうか。それとも自分の才能や能力を発揮するだけで終わっていないでしょうか。自分の満足で終わっていないでしょうか。愛が表れているかどうかは、自分の判断よりも人の反応と、教会の建て上げによって判断すべきもので

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

